

【天国への手紙

2019年1月13日放送分】

よーちゃんへ

ラジオネーム：さくら

「神様は、才能がある人を可愛がり、手元に置いておきたくなる」
そんな言葉がありますが、私の周りではきっと

あなたのことだと思います。

出会ったのは、中学1年生の春。部活動見学のときでした。

小学校からの友達がいなくて、一人だった私に声をかけてくれました。
その時に見学していたのが、お互いに青春を捧げることになる

「女子バスケットボール部」でした。

本当にあなたは才能があったと思います。

走るのが得意で、瞬発力も持久力も兼ね備えていました。

シュートもパスも狙ったところに出せるし、まさに

「バスケットをするために生まれてきた」ような、そんな人でした。

1年生の頃から試合で活躍し、きつい練習も涼しい顔をしてこなし、
同級生なのに遠いところにいる感じがして、憧れていました。

「一緒に試合に出る」…それがいつしか、私の目標になっていました。
先輩が引退して、やっと私にも巡ってきたチャンス。

「一緒に試合に出る」という目標の達成が目前に迫った、あの日の朝。
よーちゃんが事故にあったことを聞かされました。

「正直、助かるのは厳しいかもしれないらしい」

顧問の先生から聞いたときは、頭が真っ白になりながらも、先生に頼み込んで、よーちゃんの元へ駆けつけたのを覚えていました。声をかけても反応してくれなかった。

傷だらけのよーちゃんを見るのがつらくて、涙が止まらなくて。

その次の日、部活のミーティングでよーちゃんが亡くなったことを知らされました。

一緒に出るはずだった試合は惨敗。

「バスケなんて辞めてしまいたい」そう思う日々でした。

でも、いつの間にか「よーちゃんが出来なかった

バスケを続けなきゃ」と考えるようになりました。

そして、高校に入った今も、まだバスケを続けています。

今年は引退の年。

変わらず下手だけど、ここまで続けたことは、

よーちゃんも褒めてくれていると勝手に思っています。

本当に生まれ変わりがあんなら。

来世では、来世こそは、よーちゃんと一緒に試合に出たいです。

リクエスト曲

＜ 夢中 / ケツメイシ ＞